

會社側 田中幸太郎  
争議團側 八谷幸太郎

宮崎太郎  
立石利夫

團長 張 俊 杰  
副團長 孫 再 達

會社側、前記の交渉案を示して解決を希望す、  
争議團側、不都合解雇者に僅か拾圓足らずの草鞋錢は  
餘りに尠し、一人宛二拾圓の手當を支給せよと要求す、  
之に對して田中氏は不可能なりとして席を起たんとし  
たので、争議團側は一應他の幹部と協議の上翌二日午  
前十時迄回答をなすこととして午後八時會見を終つた。  
而して争議團側は協議の結果到底承服し難しとして二日  
午前十一時此旨田中氏に回答したが、田中氏は是以上

會社側に要求出來ずとして一蹴したので交渉再び決裂  
せり。

9 調停運動停頓後の状況

a 争議團側

解決の見込絶えたるを以て、總同盟に應援を求め闘  
争持續持久總戦の覺悟を定めて、總同盟九聯合會長伊  
藤卯四郎氏を上京せしめ本部の應援を受くること、  
し即日在京中の龜井代議士宛、  
麻生頑迷解決の誠意なし持久戦に入り徹底的やつつ  
ける總同盟本部と相談し軍資金應援等の準備頼む明  
日上京する。の電報を發し食糧の購入等諸般の準備  
をなしたのである。

b 調停者側